

第 6 回水環境創造プラン検討委員会 会議録

1 開催及び閉会に関する事項

(1) 開会

平成 20 年 2 月 22 日(金) 午後 3 時

(2) 閉会

平成 20 年 2 月 22 日(金) 午後 5 時

2 開催場所

岡崎市役所東庁舎 702 号室

3 出席委員及び欠席委員等の氏名

(1) 出席委員

富永晃宏、片山幸士、芹沢俊介、丸山泰男、飯尾歩、長谷川明子、天野博、山田鑛二、金澤博敬、山本恵一、安達重美、大久保正五、河野節夫、山崎真一、吉田勇次、石川優

(2) 欠席委員

加藤邦彦

(3) オブザーバー

企画政策部長 太田恒治、総務部長 坂田吉久(代理;手嶋康雄)、市民文化部長 市川美子、経済振興部長 酒井功二(代理;秋野善美)、土木建設部長 小野博章(代理;吉口雅之)、都市整備部長 三浦千秋、下水道部長 高橋利明、消防長 平山雅之、水道局長 小野長久

4 説明のための出席した事務局職員の職氏名

環境部部長 柴田宗男、環境部次長 松田藤則、環境部参事 渡邊正宜、環境保全課長 長坂浩二、環境保全課班長 糟谷慶一、環境保全課班長 塩沢卓也、環境保全課主任主査 蜂須賀功、環境保全課主事 滝川正善

5 議題等

(1) 市長挨拶

(2) 議題 1 水環境創造プランについて

(3) 委員長挨拶

6 議事の要旨

(1) 市長挨拶

水環境、水循環について最近市民の関心が高くなってきていると感じている。また、防災や水環境の保全といったことを今後進めていきたいと考えている。水環境創造プラン策定後、施策の展開にあたって引き続きお力添えを頂きたい。

(2) 議題 1 水環境創造プランについて

- ・ p112 の施策 3-3 において、目的が河川流量の増加となっているが低減の間違いではないか。(A 委員)

訂正する。(事務局)

- ・ p15(4)の最初の文章の日本語が不自然である。(B 委員)
- ・ p29 の環境基準の説明で、大気、水、土壌、騒音について言及しているが一般的に公害といえば 7 つあるため不自然に感じる。(B 委員)

文章自体がわかりにくい。(A 委員)

レイアウトを工夫して語句の説明だとわかるようにした方がよい。(C 委員)

出典を書いたほうがよい。(D 委員)

- ・ p118 の 8 行目で「取組」とあるが「取組み」とした方が読みやすい。(B 委員)
- ・ 県の森林環境税をもちいて、西三河地区ではどのような取り組みを進めていく予定か。(E 委員)

担当ではないため、詳細は把握していないが、森林整備だけでなく都市の緑化も含めて施策を進めていき、都市への投資割合は 1 から 2 割になると思う。(D 委員)

岡崎市では、額田の山林と都市部を抱えているため施策に特徴があるのか。また、岡崎市水環境創造プランを反映した施策となるのか。(E 委員)

詳細は担当に問い合わせさせていただきたい。(D 委員)

東の方の山奥にばかり投資していいのかという議論があるがどのように考えているか。(E 委員)

当初は森林の整備のみを考えていたが、税金であるため広く用途を設定する必要があり、都市の緑化推進にも用途を広げることにした。(D 委員)

- ・ p28 に鹿乗川の水質が掲載されていないのはなぜか。(F 委員)

鹿乗川では水質観測が行われているが環境基準点となっていないため掲載しなかった。鹿乗川の水質を掲載する。(事務局)

- ・ p16 のイメージ図は良いことと悪いことが混在した絵になっているので、違いがわ

かるような表現にした方がよい。また、「ため池のつかみどり大会」などは手段の一つなので別の絵にした方がよいのではないか。(G 委員)

たとえば外来種が増えて在来種が減ったなど、何が課題なのかわかるような工夫が必要である。(A 委員)

対策の絵については、コメントに主語がないのでわかりにくい。また、上下の絵に関連性がないので混乱する。(C 委員)

対策後の絵が画一的な森林に見えるので、混交林のようなイメージの方がよい。(H 委員)

上下の絵が before after であるなら関連性を意識して描くべきであり、before after でないなら別のページにすべきである。また、水循環の説明は別の絵にした方がよい。(C 委員)

現状の方は、たとえば「ホタルの生息地が分断されています」といったように、現状と事業実施後の比較をしやすいような表現にした方がよい。(H 委員)

ため池については本来の農業用水としての機能が失われてきており、今後は生物多様性などの機能が重要となっていく。(H 委員)

なぜ愛知の人はため池を大事にするのかよくわからない。(C 委員)

ため池に関する説明がないと一般の人は理解できないのではないか。(A 委員)

多様な事を逐一説明しては本になってしまう。ポイントを絞った絵とすべきである。(E 委員)

主張したいポイントを示すべきである。(C 委員)

- ・ p105 の緑化の推進については写真の意図がよくわからないので、差し替えた方がよい。(G 委員)

- ・ p121 の「水辺ふれあいマップ」については、作りっぱなしになるのではなく、市民からのフィードバックが反映されるようにしてほしい。(G 委員)

今後検討していく。(事務局)

- ・ 今後の展開として、プラン全体を市民に理解してもらうには、この冊子では厚すぎるのではないか。何を重点的にやっていくのか、また全体像を説明するようなパンフレットを作成した方がよい。(D 委員)

2~3枚くらいにまとめる方がよい。(E 委員)

- ・ p114 の竹林については、竹は土壌の保持能力は弱い根が張り巡らされているので土砂崩れ防止になる。写真のような場所で竹林を伐採すると土砂崩れが起きる可能性がある。(H 委員)

今後検討していく。(事務局)

- ・ 企業の緑化基準や水質基準は今後どのようなになるのか。(I 委員)
緑化基準は 20%程度になる予定であり、水質基準は現行より少し厳しい基準となる予定である。(J 委員)
- ・ p17 の条例は「おかざきしすい」と読むのか。(B 委員)
「おかざきしみず」と読む。(事務局)
- ・ p119 のホテルについては国の天然記念物となっているのは全国で 10 箇所程度しか存在しないので、強調すべきである。(F 委員)
- ・ 修正点の確認については、委員長が執り行うということでよいか。(K 委員)
異議なし

(3) 委員長挨拶

単なるプランだけでなく、具体的な施策を盛り込んだプランとしたが、今後ため池など議論しながら施策の実施を進め、岡崎市から全国に発信していけるような取り組みとしたい。

【配付資料】

第6回水環境創造プラン検討委員会 議事次第
第6回水環境創造プラン検討委員会 出席者名簿
水環境創造プラン検討委員会 全体配席図
資料-1:水環境創造プラン(案)
資料-2:岡崎市水を守り育む条例
参考資料:水環境創造プランで実施する施策の概算費用

会議録署名者

水環境創造プラン検討委員会検討委員長 富 永 晃 宏

水環境創造プラン検討委員会検討委員 長 谷 川 明 子

水環境創造プラン検討委員会検討委員 片 山 幸 士